

野々市町子ども読書活動推進計画 の評価結果に関する資料

平成 26 年 3 月作成

野々市市立図書館

《資料の概要》

本資料は、子どもたちが自ら進んで読書に親しみ、よりよい読書習慣を身に付ける施策の方向や具体的な取り組みを示すために、野々市市教育委員会が平成 22 年 9 月に策定した「野々市町子ども読書活動推進計画」について、その進捗状況の評価結果を平成 25 年度の時点でまとめた報告である。

《目次》

1. 「野々市町子ども読書活動推進計画」の評価について・・・・・・・・・・	2
(1) 評価の根拠	
(2) 評価の目的	
(3) 評価の体制及び流れ	
(4) 評価の方法	
(5) 外部評価委員について	
2. 計画全体の評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3. 実施計画の評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(1) 家庭	
(2) 地域	
(3) 保育園・幼稚園	
(4) 学校	
(5) 町立図書館	
4. 広報活動の評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
5. 推進体制の評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18

1. 「野々市町子ども読書活動推進計画」の評価について

(1) 評価の根拠

町関係機関と県立学校、また幼稚園など民間の施設、その他子ども読書活動に取り組む団体からなる連絡会を設置し、進捗状況を確認・評価するとともに、外部評価委員会を設置し必要に応じて施策や事業の再検討・調整を行います。(本計画「5. 推進体制」より抜粋)

(2) 評価の目的

評価の結果を、各部門の今後の施策・事業の充実に役立てていく。また、第二次計画策定の際(平成26年度実施予定)の参考にする。

(3) 評価の体制及び流れ

野々市町子ども読書活動推進連絡会を設置し、推進計画の評価について討議する。連絡会を構成する団体は、所管する読書活動の自己評価を行い、市立図書館へその結果を報告する。市立図書館は、この自己評価をとりまとめ、市立図書館協議会において外部評価を行う。市立図書館はこの外部評価を取りまとめ、市教育委員会に報告する。

(4) 評価の方法

自己評価は、市立図書館が作成する様式(アンケート形式)に、各部門担当者が、進捗状況に応じて記載する方法をとる。外部評価は、上記の自己評価を委員が精査し、意見を述べる方法とする。

【自己評価の区分】

★実施した場合

- ①拡大(回数や予算の増加を伴うケースなど)
- ②継続(現状維持)
- ③改善(抜本的な変更措置を伴うケースなど)
- ④廃止(取りやめる)
- ⑤完了(既に役割を終えた場合)

★未実施の場合

- ・検討中(未定の場合)
- ・廃止(検討の末、廃止が決定した場合)

(5) 外部評価委員について

市立図書館協議会

(任期 平成24年4月1日～平成26年3月31日)

氏名	備考
魚住 慧子	読書会連絡協議会会長
川上 秀子	家庭教育サポーター
中村 恵子	女性協議会代表
帆 苺 宏典	学識経験者
松本 哲幸	学識経験者
柳井 清治	石川県立大学 図書・情報センター長

(敬称略 五十音順)

2. 計画全体の評価結果

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・自己評価の区分（拡大・継続・改善・廃止・完了及び未実施の場合の検討中・廃止）の意味が、評価担当者に十分説明されていない感じを受ける。そのため、例えば「継続」と「改善」の違いが明確でない箇所があった。また評価の理由が明らかでない箇所があった。「改善」ならば、どのように改善して行くのか、未実施の場合は、なぜ実施できなかったのか、その理由も書くべきだった。
- ・様々な施策を総花的にするよりも、重点的な施策を打ち出してみても良かったのではないか。市内のあらゆる施設の取り組みが、多数挙げられているが、できないことを無理にしようとしてはいないだろうかと振り返ってほしい。スクラップアンドビルドにおける、ビルドの部分がやや多く思われる。
- ・自己評価を見る限り、現市立図書館の施設や機能は、子どもの読書に携わる各施設・部署を含む、様々な市民ニーズに応え切れていないことが伺える。だが、今後しっかりとした新図書館が完成すれば、利用者も増え、関連施設・部署との連携も進み、図書館のみならず、部門を超えて、現時点におけるあらゆる課題が、一挙に解決に向かう可能性がある。
- ・市全体を通して、施設の職員が不足する中、ボランティアを活用・育成することの重要性が打ち出された内容になっている。今後、ボランティア参画はますます進むだろう。だが、従来通りのやり方では平行線に終わりかねない。例えば、現在の学校図書館におけるボランティアは、子どもがその学校に通学している若い保護者が多いと聞く。今後は、そこに高齢者等、地域の人が、もっと関わっていける道を探ってほしい。また、そのための広報・PRのあり方を見直してほしい。

3. 実施計画の評価結果

(1) 家庭

具体的な取り組み	自己評価
ア) 読書の大切さを保護者に広く伝えます。	継続
イ) 家庭における読書への関心を高める機会を作り、子どもと保護者に適切な情報を提供します。	継続
ウ) 乳児と共に絵本を読む楽しさとその効果を保護者に伝えます。	継続
エ) 親子で読む図書の充実を図ります。	改善
今後に向けて	
◇出産前の親を対象にした子育て講座を開催します。	検討中

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・今の段階でできる最大限の取り組みだと思う。全体的に納得できる内容である。
- ・自己評価で「改善」「検討中」となっている取り組みについては、関係機関との話し合いで、良い方向に進めてほしい。
- ・FMエヌワンでは、普段から子どもの読書に関する情報を、かなり熱心に取り上げ放送している。この放送を活用した取り組みはとても効果的だ。子どもが自分のお薦めの本を番組内で紹介してみたらよい。
- ・子どもの読書がいかに価値あるものかということを、若い保護者はあまり理解していない可能性がある。既に子ども時代に読書離れが見られた世代である。だからこそ、ブックスタートで、親子がともに本を読む大切さを伝えていくことに意義があると言える。どのように伝えていけば、効果が上るかを述べるのは難しいが、例として、妊婦さんの不安を解消する上で、読書が胎教に良い、と伝えることも一つの方法だ。

(2) 地域

①保健センター

具体的な取り組み	自己評価
ア) 町立図書館と協力してブックスタートを推進します。	継続
イ) 子ども図書の実質を図り、貸し出しを促進します。	改善
ウ) 子ども図書に関する情報を広く町民に提供します。	改善
今後に向けて	
◇町立図書館や子育て支援センター等と協力し、さらに子どもが読書に親しむ機会を増やすように努めます。	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・「家庭」部門の項目にあった、「出産前の人を対象にした子育て講座」は、家庭部門では今回実現しなかったが、保健センターでもらえれば、上手くいくのではないかと。
- ・保健センター所蔵の本を利用する人が減っている。そうした取り組みが必要無いと考えるなら、その方針を支持するが、逆に、出産前の人を対象にした本、ぜひ読んでほしい本を、重点的に置いて、おすすめして行くという方法を取ってみるのもよいのではないかと。
- ・本ではなく、図書館だより、移動図書館の日程、おすすめの絵本の紹介等の、情報を提供する取り組みはとても良い試みだと思う。
- ・3歳児検診での読み聞かせは、良いと判断したことを継続し、レベルアップしていることが評価できる。関係者同士の意思統一を図り、今後も活動を高めていってほしい。

②子育て支援センター・児童館・学童保育

具体的な取り組み	自己評価
ア) 各施設がその特性を生かして、子どもや保護者に読書の楽しさを伝え、読書を通して子育てを支援します。	継続
イ) ボランティアスタッフを確保し、支援体制の充実を図ります。	継続
ウ) 町立図書館の協力を得て、図書コーナーを充実します。	廃止
エ) 学童保育の活動として町立図書館を訪問します。	継続
今後に向けて	
◇町立図書館や学校、関係機関と情報交換を密にし、研修会に参加して知識の向上に努めます。	廃止
◇サービス拠点の拡大と運営内容の充実に努めます。	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・ブックスタートのボランティアが、活動範囲を広げ、子育て支援センター等でも活躍できるようになればいいと思う。
- ・ボランティアを取り入れた取り組みと言えば、子どもを対象にした読み聞かせが主流だが、市民の中には、読書の大切さについて、みんなで車座になって話し合う機会を求めている人もいる。そして、その取りまとめを、専門家よりも身近なボランティアに受け持ってもらいたいとの要望もある。こうした取り組みならば、施設担当者の負担も大きくなりたくないし、ボランティア自身の意識も高まるのではないかな。
- ・「町立図書館の協力を得て、図書コーナーを充実します」という取り組みで、廃止の評価となっているが、市内の他施設の事業と重なる部分が多いことが要因と思われる。図書の充実に限らず、施設同士の横のつながりを深めていき、イベント開催日の調整など情報交換をしていくことが大切だ。

③公民館・女性センター

具体的な取り組み	自己評価
ア) 町立図書館の協力を得て、児童図書室（コーナー）の機能を充実します。	改善
イ) 子どもの読書に関する情報を提供します。	改善
今後に向けて	
◇子どもの読書に関する事業を工夫し、実践します。	検討中
◇職員の図書室運営に関する技術や知識の向上に努めます。	廃止
◇町民が、子どもの読書に関する意義や重要性を考える機会の提供に努めます。	検討中
◇ボランティアの育成と活用方法を検討します。	検討中

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・スタッフの不足については、公民館を利用しているサークルに協力を求めてみてはどうか。一人ではできないことも、グループでならば、しやすい。頼られれば、快く引き受けてもらえるのではないかと。広報等で広く一般からボランティアを募集するのも大事だが、口コミで集まった、そこで今まさに活動している人は、施設の状況を最も知っており、そこから良いアイデアも生まれてくるのではないかと。各公民館審議会を通してお願いをしてみてもどうか。
- ・新図書館の開館後は、地区公民館図書室（配本所）が必要なのか、再検討は行うべきだ。または、逆に、4つの配本所から半径 1km 以内に、すべての市域が収まるという、本市のコンパクトな特色を生かした工夫ができないかと考えてみるのも面白い。

(3) 保育園・幼稚園

具体的な取り組み	自己評価
ア) 保育園では園文庫及び「クラス絵本」の充実と活用を図ります。	継続
イ) 幼稚園では子ども図書の貸し出しを促進します。	継続
ウ) 図書や紙芝居の読み聞かせを実施します。	継続
エ) 園児と保護者へ図書や図書を利用できる施設の情報を提供します。	継続
オ) 保護者に、親子でふれあい読書することの大切さを啓発します。	継続
カ) 保育士、教職員の知識及び技術の向上に努めます。	継続
今後に向けて	
◇園文庫の効率的な運営方法を検討します。	継続
◇園児が集中して読書できる環境と設備を整えます。	継続
◇幼稚園、保育園、小中学校、町立図書館等が情報交換や研修する連絡会を作ります。	検討中
計画策定後に開始した取り組み	
図書の数・量をともに向上させ、園児の図書への興味・関心を引き出し、本への親しみや読書意欲の芽生えを促す	拡大

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・市内の図書施設を記したマップがあると良い。施設の詳しい場所や移動図書館の日程等は意外と知られていないし、転入してきた人にはもちろん、近くに住んでいる人であっても、それを、自分が利用してもいいサービスなのかどうか分からないというケースもある。
- ・園文庫を保護者会主導で運営してもらう方策は、親が子どもの読書に関心を持ち、保護者同士の交流ができるという、プラスアルファの成果が得られ、園側の負担も軽減される、とても良いアイデアだ。
- ・市内の関係機関との情報交換や、自主研修を持つことは大切だと理解する。ただ、職員の勤務時間、業務量との兼ね合いから、実現は難しいかもしれない。解決は、市の予算、国や県の方針に委ねるしかない。
- ・園から帰るときに本を借りて持って帰れるシステムは、とても良い。

(4) 学校

①小学校

具体的な取り組み	自己評価
ア) 「読書週間」などの読書強化の取り組みを年3回実施します。	継続
イ) 朝の始業前の10分間を自由読書の時間とする「朝読書」を推進します。	継続
ウ) 図書及び図書館の利用の学習を推進します。	継続
エ) 司書教諭と学校司書が連携して読書関連事業及び授業への適切な指導をします。	継続
オ) 図書委員会の活動を活性化します。	継続
カ) 各校で、個人貸し出しや全校の年間貸し出しの目標値を定め、読書活動を推進します。	継続
キ) 図書館に足を運ぶ児童を増やすための催しを実施します。	継続
ク) 「ノーテレビ・ノーゲームデー」に合わせた家庭での読書すなわち「家読」 ^{うちどく} を推奨します。	継続
ケ) 学校司書は、児童や教職員へきめ細かなサービスと適切な情報を提供します。	継続
コ) 電算システムやインターネットを活用して、図書館サービスの高度化を図ります。	継続
サ) 図書館の利用促進につながる貸し出し方法や室内展示の工夫をします。	継続
シ) 児童の図書館や読書への関心を高めるために、多様な広報活動を実施します。	継続
ス) 町内外の図書館と連携を深め、情報交換や自主研修を行い、知識や技術の向上に努めます。	継続
セ) 常に児童の身近に図書がある環境を作ります。	継続
ソ) 児童には学校図書館を公共図書館の利用方法を身に付ける場と位置付けて指導します。	継続
今後に向けて	
◇学校図書館図書標準の蔵書数の達成を目指します。	改善
◇町立図書館を含む町内学校図書館の横断検索システムを構築し、蔵書の共有化を目指します。	検討中
◇児童の読書量を増やすとともに、読書の質の向上に努めます。	継続
◇図書館利用指導（図書館を使った調べ方を学ぶ時間）を教育課程に組み込むように努めます。	継続

計画策定後に開始した取り組み	
「ののいち読書ノート」の活用と推進	継続
市図書館を使った調べ学習コンクール	継続
「読書感想文」本の選び方、読書感想文の書き方指導	継続
地域との連携 図書ボランティアの受け入れ	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・他部門でも取り上げられるキーワード「読書の質」、どういったことが「質」と言えるのか、子ども読書に携わる者の中で、共通認識を持っていかなくてはならないと考える。
- ・一般的に質の高い本とは、文学的であり、娯乐的でないものをいう。ただし、学校図書館に置かれている時点で、既にその本の質は、ある程度保障されていると見るべきではないか。学校というシステム上、児童が文学的な本を読むという理想の形に近づけようとするが、「朝読」は読書のきっかけづくりなので、質の高さにあまりこだわらず、どのような本でも構わないという考え方があっても良いのではないか。
- ・多読者の表彰は、児童が競い合って本を読むようになる良いアイデアである。子どもは自分の最も得意なことで、競い合いたいと考える。それが読書である子もいれば、縄飛びである子もいるだろう。それが個性であり、学校生活のあらゆる場面を通して、個性が発見されることを願う。本好きな子が多いのは良いことだが、必ずしも全員が「本が一番好き」でなくても良いのではないか。
- ・本計画の目標は、子どもが18歳になった時点で、読書力を身に付けた大人に成長していることである。その読書力というものが、どのような力を表すのかを考えていくことが、読書の質というものの理解につながる。
- ・長い夏休みを活用して、調べ学習のサマースクールを行うのは良い試みだ。ぜひ次年度につなげてほしい。

②中学校

具体的な取り組み	自己評価
ア) 朝の始業前の10分間を、自由読書の時間とする「朝読書」を推進します。	継続
イ) 図書及び図書館を利用するための学習を推進します。	継続
ウ) 学校司書は、生徒や教職員に対して、適切なサービスを提供します。	継続
エ) 電算システムやインターネットを活用して、高度なサービスを提供します。	改善
オ) 図書委員会の活動を活性化します。	継続
カ) 図書館の利用促進につながる貸し出し方法や室内展示の工夫をします。	継続
キ) 町内外の図書館と連携を深め、情報交換や自主研修を行い、知識や技術の向上に努めます。	継続
今後に向けて	
◇学校図書館図書標準の蔵書数の達成を目指します。	継続
◇司書教諭が読書活動や読書関連事業及び授業へ、適切に指導できる時間を確保します。	廃止
◇ボランティアスタッフを確保し、支援体制の充実を図ります。	検討中
◇町立図書館を含む町内学校図書館の横断検索システムの構築を目指します。	検討中
◇施設の機能の充実に努めます。	継続
計画策定後に開始した取り組み	
市図書館を使った調べ学習コンクール	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・小学校と比べて、施策の数や評価の記述が少ないが、これが中学校の特色なのだと理解する。小学生時代とは異なり、中学生は受験対策、授業で調べることに本を利用する機会の方が多くなるため、施策の内容や量を、小学校と同じ尺度で測るべきではない。
- ・子どもの成育に合わせた働きかけが必要だ。小学校の6年間には、読書の習慣化や、自分で読み終える力、図書館の利用マナーを身に付けることなど、基本として学ぶべきことがたくさんある。中学生になると、思春期に入り、人生に大きな影響を与える本に出会える時期となる。誰かが媒介になって、質の高い本に出会わせてあげられるチャンスである。小学校と同じでなくともよいが、中学生に対する施策はやはり必要だ。

- ・子どもが生きていく中で、困った時に、本を読んで感動した経験を心の柱にしていくことができる、そういう本に出会えば、心の安定がもたらされる。
- ・中学生らしい施策として、図書委員会の活動がある。生徒同士が「自分を変えた本」を紹介し合う活動を行ってみてはどうか。

中学生には、吉永小百合の詩の朗読や、落語などをぜひ聞いてほしい。それは図書館が実施すればよく、必ずしも小学校で行われる読み聞かせのように、ボランティアによるものでなくともよい。なお、どの子に・いつ・何を読ませ・聞かせるべきかを見極める力こそが司書に求められる。

③高等学校

具体的な取り組み	自己評価
ア) 学校司書は、生徒や教職員のニーズに合った適切なサービスを提供します。	継続
イ) 情報化を進め、便利で高度なサービスを提供します。	継続
ウ) 図書館・教員・生徒が一体となった効果的な読書指導を実施します。	継続
エ) 図書委員会の活動を活性化します。	継続
オ) 図書及び図書館に関する広報活動を工夫し、読書意欲を高めます。	継続
今後に向けて	
◇読書に親しむ態度を育み、望ましい読書習慣を確立させるために、LHの時間に全校一斉（または学年単位）の読書活動を年に複数回実施します。	継続
◇校内の図書検索システムを町立図書館や県立図書館の横断検索システムと接続し、生徒の多様な興味・関心に対応できるようにします。	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・市立図書館での生徒の手作りPOP展は素晴らしい企画だった。今後も続けてほしい。最近の高校生がどのような本を読んでいるのかがわかり、興味深い。市立図書館に掲示され、市民の目に触れることで、生徒の創作意欲も上がるのではないだろうか。
- ・生徒が保育園で読み聞かせを行うことで、読んでもらった園児が高校生になった時、また同じように園児に読み聞かせをするだろう。その繰り返しにより、お互いに成長していける素晴らしい取り組みだ。これらを明倫高校の特色として大切にし、継続していくとよいと思う。
- ・石川県立大学の図書館でも実施されている「ビブリオバトル」（書評合戦）は、新たな本と出会う、とても魅力的な取り組みだ。高校でも取り組んでみてはどうか。
- ・市内に唯一の高校として、市行政の事業にこれだけ協力してもらえることはありがたいことである。

④特別支援学校

具体的な取り組み	自己評価
ア) 児童生徒が読書に関心を持つきっかけづくりをします。	改善
イ) 保護者に読書のすばらしさを伝える働きかけをします。	継続
ウ) 保護者や地域のボランティア、児童生徒も読み手に加え、バラエティに富んだ読み聞かせを行います。	継続
エ) 担当職員の技術や知識の向上に努めます。	継続
オ) 児童生徒に豊富な図書と図書館の利用機会を提供します。	継続
今後に向けて	
◇誰もが図書を利用しやすい環境を整備します。	継続
◇学校図書館の貸し出し手続をできる限り簡便にします。	継続
◇障害の特性に応じた図書類を充実・整備します。	継続
◇障害者サークルが読書活動に使いやすいコーナーづくりに努めます。	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・一次評価を全面的に指示する。
- ・その子その子の状態にあった取り組みを、これまでどおり教員が考えて行ってもらえたらよいと思う。
- ・本の背表紙にカラーシールを貼って分類する等、教員が非常に努力していることが伝わった。
- ・旧県立養護学校との統合により、新しい図書館が整備された際に、市立図書館司書が担当教員に図書整理の仕方をアドバイスした。こうしたつながりが、継続していくとよい。

⑤教育支援センター

具体的な取り組み	自己評価
ア) 絵本や紙芝居の読み聞かせをし、児童生徒が図書に接する機会を増やします。	継続
イ) 児童生徒が読書に関心を持つきっかけづくりをします。	継続
ウ) 職員の技術や知識の向上に努めます。	検討中
今後に向けて	
◇「朝読書」の時間の確保に努めます。	廃止
◇町立図書館からの団体貸し出しを受けて、児童生徒に豊富な図書を提供します。	検討中
◇司書による読み聞かせや図書の紹介等のサービスを受け、児童生徒の読書意欲を高めます。	検討中

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・同じ生徒がずっと通う施設ではないので、継続的な取り組みが難しいのは仕方が無いことと思う。
- ・新市立図書館の建設予定地はセンターから5分程度と近いので、今後は生徒たちも来館しやすくなるだろう。教育センターでは、生徒が社会教育施設に出向き、様々な活動に励む地域の人たちとふれ合う取り組みが行われている。ここでは、学校のような、子どもだけの世界では培うことのできない力を身につけられる。そうした活動に市立図書館を活用してもらえたらよい。

(5) 町立図書館

具体的な取り組み	自己評価
ア) ブックスタート（平成15年7月開始）推進の母体となり、活動します。	継続
イ) 乳幼児と保護者に利用しやすい図書館環境を作ります。	改善
ウ) 子どもが読書に関心を持つきっかけづくりとして、おはなし会を開催します。	継続
エ) 電子書籍も視野に入れ、町立図書館の蔵書の充実を図ります。	継続
オ) 司書及び職員の研修機会を増やし、より高度なサービスの提供に努めます。	拡大
カ) 地域の関係者と連携を深め、協力体制を作ります。	拡大
キ) 団体貸出や相互貸借のシステムを活用して、子どもたちに図書を届けます。	継続
今後に向けて	
◇ヤングアダルトサービスの充実を図ります。	改善
◇障害のある子や外国人、図書館を利用しにくい子どもへのサービスを向上させます。	継続
◇子どもの読書に関するボランティアの育成とその活用に努めます。	継続
◇子どもの読書に関する講座や講演の開催に努めます。	検討中
◇施設と設備の充実に努めます。	拡大
計画策定後に開始した取り組み	
職場体験学習の受け入れ	継続

外部評価委員会(市立図書館協議会)の意見

- ・小さい子どもを持つ女性利用者からは、図書館の児童コーナーと一般コーナーの間に仕切りを作ってほしいという声がよく聞かれる。館内が狭いこともあって、子どもの声が館内に良く通るため、他の利用者に迷惑をかけるのではないかと常に気を遣い、ゆったりした気分で読書ができない、親子で気軽に利用できるようにしてもらいたいというものだ。一方で、仕切りがないから、保護者の目が子どもに行き届きやすいというメリットがあるとも言える。子どものエリアと大人のエリアの分けについては、他の公共図書館の例を見ても、その運用は様々だ。現施設の大幅な改造は難しいが、今後この問題をどのように解決していくか検討が必要だ。
- ・市立図書館を最も多く利用するのは、保育園、児童館、学校図書館等のサービス対象に当てはまらない年代の人たち（未就園児やリタイアした人）ということに、結果的になると思われる。す

すべての人が満足できる施設を作ることとは不可能だが、一番多く利用すると思われる人にとっての、居心地の良い環境づくりを心掛けていけばよいのではないだろうか。

- 現図書館の施設や機能が十分ではないため、取り組みについても、現時点では正当な評価ができない。新図書館に期待したい。図書館が新しくなることで、市民の関心が高まり、見学者が増えたり、今まで気付かれなかった本が発見されたりする効果が期待できる。

4. 広報活動の評価結果

評価項目	評価
「子ども読書の日」、「石川県子ども読書月間」に合わせた広報の実施	継続
町の広報誌、放送を活用した情報提供	継続
町のホームページを活用した情報提供	継続

5. 推進体制の評価結果

評価項目	評価
市の各部署及び市内の子ども読書活動に取り組む団体からなる連絡会の設置	継続
外部評価委員会の設置及び外部評価の実施	継続